

## 下関市

### 【都市基本データ】

- 1 人口 29万6,369人(2005年5月31日現在)
- 2 面積 715.89平方キロメートル(2006年10月1日現在)
- 3 歴史

本市は、本州と九州及び大陸との接点である地理的条件から、内外の交通の要衝として古くから栄え、大正、昭和の時代の変遷とともに、周辺市町村との合併、さらには、2005年2月に豊浦郡4町との合併により市域を拡大し、さらに、2005年10月に中核市となった。

### 【経済データ】

#### 産業別生産

(単位：百万円)

産業分類	平成13年度
産業合計	931,117
第1次産業	12,816
農林水産業	12,816
第2次産業	212,735
鉱業	1,988
建設業	56,138
製造業	154,609
第3次産業	705,566
電気・ガス・水道業	33,101
運輸・通信業	66,845
卸売・小売業・飲食店	120,963
金融・保険業	69,099
不動産業	113,653
サービス業	183,495
公務	118,410

合併前の1市4町の合計



### 【公選制度】

- 市長……………公選(4年毎)
- 助役(副市長)……………任命制(2名)
- 市議会……………公選(4年毎・議員数104名)

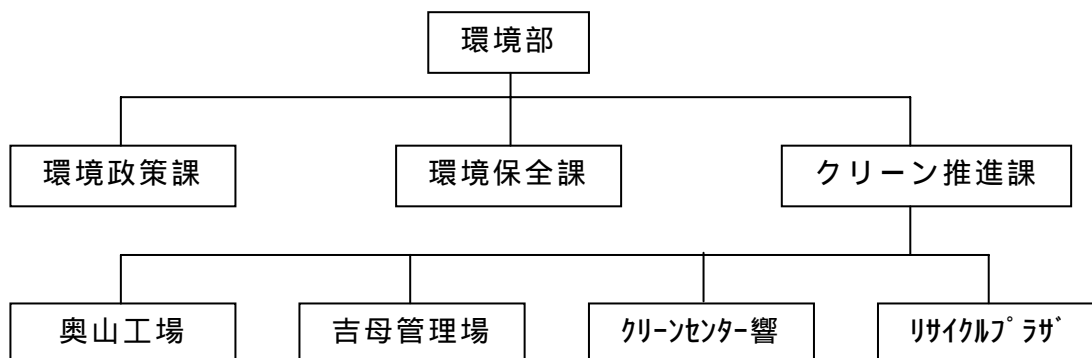
## 【行政制度】

### 1 市の組織

下関市は、27部 149課があり、職員数は3,491人。(2005.4.1現在)

### 2 環境部の組織

下関市環境部には、環境政策課、環境保全課及びクリーン推進課の3課がある。また、4つの廃棄物処理施設を管理している。



奥山工場



クリーンセンター響



リサイクルプラザ

### 3 市の基本計画（マスタープラン）及び主要プロジェクト

#### 新市建設計画

本計画は、合併後の新市におけるまちづくり全般のマスタープランとなるものであり、1市4町の速やかな一体性の確立及び住民福祉の向上と地域の個性を活かしながら均衡ある発展を目指す。

なお、新市の「下関市総合計画」は現在策定中である。

「新市建設計画」における目指すべき7つの将来像は以下のとおり。

情報があふれ活動しやすい便利なまち  
人と自然にやさしく安全で安心して暮らせるまち  
将来に希望をもって意欲的に働ける自立したまち  
観光や交流から生まれる多彩で魅力あるまち  
誰もが健康で、ふれあいを大切にした温かみのあるまち  
地域の特色を活かしたまなびのまち  
市民も企業も行政もみんなで担える元気なまち

## 【環境の現状】

### 1 環境法制度（市の条例・規則）

- ・ 下関市環境基本条例
- ・ 下関市環境審議会条例
- ・ 下関市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例、規則
- ・ 下関市環境保全条例、規則など

### 2 主要施策

#### まちづくりの基本理念

まちづくりを担うのは人であり、人と人、人と自然、人と歴史のつながりを大切にしつつ新たなまちを共につくっていくため、新市建設計画では、まちづくりの理念を次のように定めます。

自然と歴史と人が織りなす交流都市～自然と人、人と人、ふれあいで輝く共創のまちづくりを目指して～

元気、つながり、共創をキーワードに、まちづくりを進めます。

元気 すべての人が健康で元気に暮らせるまちづくり

つながり 自然と人、人と人の新たなふれあいが原動力となるまちづくり

共創 地域相互の緊張感をエネルギーに、交流力と内発力が高まる共創のまちづくりの基本理念を踏まえ、目指すべき七つのまちづくりの将来像を設定し、これらの基本方針に基づき、新市で施策を進めていきます。

### 3 環境基準

#### (1) 大気

本市では、事業活動や自動車排出ガスによる大気の汚染の状況を監視するために、一般環境大気測定局を7局設置し、大気汚染物質の常時監視を行っています。

物質	環境基準	下関市 (年平均値の 全市平均) 2004年数値
二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> )	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。	0.004ppm
二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。	0.020ppm
一酸化炭素(CO)	1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppmであること。	0.5ppm
浮遊粒子状物質 (SPM)	1時間値の1日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ1時間値が0.20mg/m <sup>3</sup> 以下であること。	0.028mg/m <sup>3</sup>
光化学オキシダント (O <sub>x</sub> )	1時間値が0.06ppm以下であること。	0.026ppm
ベンゼン	年平均値が3μg/m <sup>3</sup> であること。	2.1μg/m <sup>3</sup>
トリクロロエチレン	年平均値が200μg/m <sup>3</sup> であること。	0.16μg/m <sup>3</sup>
テトラクロロエチレン	年平均値が200μg/m <sup>3</sup> であること。	0.095μg/m <sup>3</sup>
ジクロロメタン	年平均値が150μg/m <sup>3</sup> であること。	2.2μg/m <sup>3</sup>
ダイオキシン類	年平均値が0.6pg-TEQ/m <sup>3</sup> であること。	0.036pg-TEQ/m <sup>3</sup>

(2) 水質

人の健康の保護に関するもの

平成 16 年度の本市における「人の健康の保護に関する項目」については、河川、海域とも全ての調査地点で環境基準を達成していました。

環境基準

項目	カドミウム	全シアン	鉛	六価クロム	砒素
基準値 (mg/ )	0.01	検出されな いこと	0.01	0.05	0.01
項目	総水銀	アルキル水 銀	ジクロロメ タン	四塩化炭素	1,2-ジクロ ロエタン
基準値 (mg/ )	0.0005	検出されな いこと	0.02	0.002	0.004
項目	1,1-ジクロ ロエチレン	シス 1,2-ジ クロロエチ レン	1,1,1-トリ クロロエタ ン	1,1,2-トリク ロロエタン	P C B
基準値 (mg/ )	0.02	0.04	1	0.006	検出されな いこと
項目	トリクロロ エチレン	テトラクロ ロエチレン	1,3-ジクロ ロプロペン	チウラム	シマジン
基準値 (mg/ )	0.03	0.01	0.002	0.006	0.003
項目	チハ`ソカルブ`	ベンゼン	セレン	硝酸性窒素 及び亜硝酸性 窒素	ふっ素
基準値 (mg/ )	0.02	0.01	0.01	10	0.8
		項目	ほう素		
		基準値 (mg/ )	1		



角島大橋

生活環境の保護に関するもの

平成 16 年度の本市（旧下関市）における「生活環境の保全に関する項目」のうち、有機物による汚染度を示す B O D (河川)については、主要河川 9 調査地点中 3 地点が、同じく C O D (海域)については、4 基準点中 2 地点が環境基準を達成していませんでした。その他の項目については、大腸菌群数を除き、環境基準を達成しています。

旧下関市とは合併前の下関市のこと

【環境基準】

河川

類型	基準値				
	p H	B O D ( mg/ )	S S ( mg/ )	D O ( mg/ )	大腸菌群数 ( MPN/100m )
A A	6.5以上 8.5以下	1	25	7.5	50
A	6.5以上 8.5以下	2	25	7.5	1,000
B	6.5以上 8.5以下	3	25	5	5,000

湖沼（ア）

類型	基準値				
	p H	C O D ( mg/ )	S S ( mg/ )	D O ( mg/ )	大腸菌群数 ( MPN/100m )
A	6.5以上 8.5以下	3	5	7.5	1,000

湖沼（イ）

類型	基準値	
	全窒素 ( mg/ )	全燐 ( mg/ )
	0.2	0.01

海域（ア）

類型	基準値				
	p H	C O D ( mg/ )	D O ( mg/ )	大腸菌群数 ( MPN/100m )	n-ヘキサン抽出物質 ( 油分等 )
A	7.8以上 8.3以下	2	7.5	1,000	検出されないこと

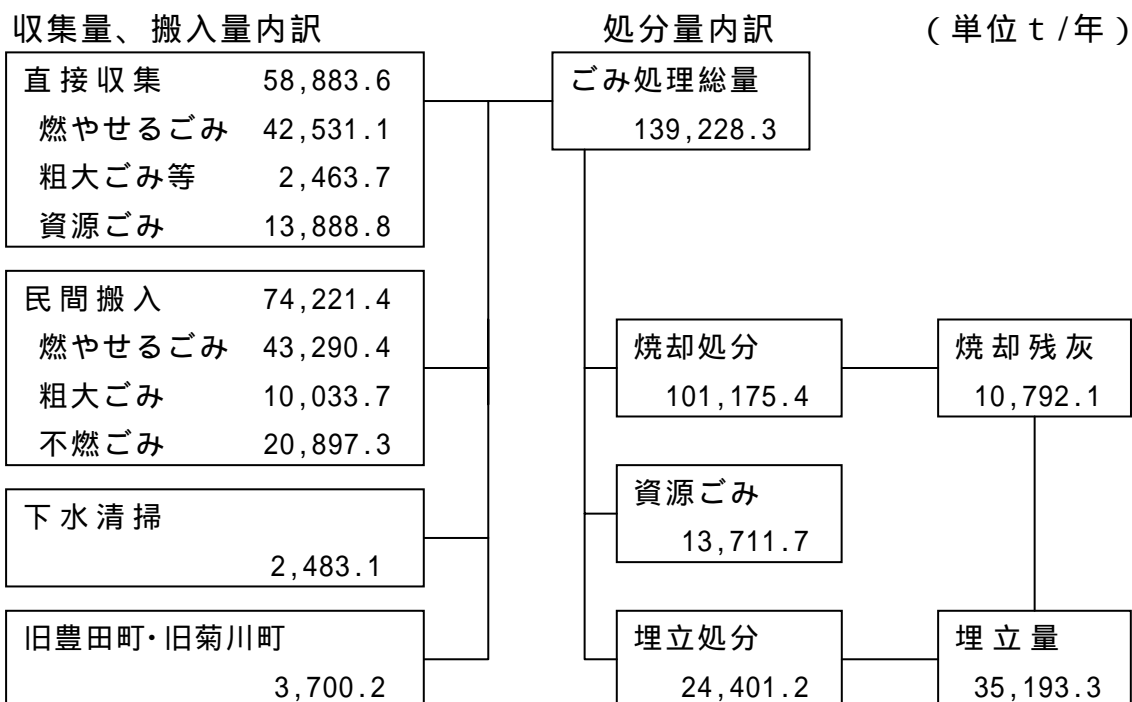
海域（イ）

類型	基準値	
	全窒素 (mg/ )	全燐 (mg/ )
	0.2	0.02
	0.3	0.03

河川・海域湖沼環境基準（BOD・COD）達成状況



4 廃棄物・上水道・下水道・温暖化ガス排出量などの状況  
 下関市の廃棄物の収集及び処分内訳(平成 16 年度実績)



上水道の現状 (2004 年)

年間給水量	37,566,586m <sup>3</sup>
供給能力	108,319m <sup>3</sup> /日
給水人口	273,450人
浄水場	8 箇所
水源	木屋川ダム、湯の原ダム、内日貯水池

下水道の現状 (2005 年)

計画排水面積	6,447.5ha
計画排水面積	3,447.5ha
整備率	53.9%
計画排水人口	303,670人
整備率	53.9%
終末処理場数	7 力所
ポンプ場数	24 力所

## 温暖化ガス排出量

二酸化炭素の排出量を 2008～2012 年の 5 年間の平均で、1990 年レベルに比べ 15% 削減を図るため、市民・事業者・行政の 3 者が協力し、低公害車等の普及啓発、自然エネルギーの導入、省エネの実践を図るなど、積極的に二酸化炭素低排出型ライフスタイルへの変革に努めています。

## 5 環境分野における課題

### (1) 自然環境の保全と活用

下関市は関門海峡や美しく長い山陰海岸など魅力的な景観と豊かな自然環境に恵まれた地域です。今後ともこれらの貴重で特色ある地域資源を積極的に保全していくとともに観光振興や地域学習など、多方面での活用を図っていく必要があります。

### (2) 都市基盤の整備

新市としての地域全体の発展を見据え、便利な暮らし、活発な経済・産業活動の基盤となる都市環境の整備を図っていくとともに、高度情報技術の進展に対応した情報基盤を行っていく必要があります。

### (3) 生活環境の整備

防災体制の強化や上下水道の整備等、生活基盤の充実・強化を図り、安心して快適に生活できる環境づくりを推進していく必要があります。また、地球環境の保全のため、廃棄物の適切な処理やリサイクルの推進により、循環型社会の形成に取り組む必要があります。

## 6 主要環境関連施設

### (1) リサイクルプラザ(しものせき環境みらい館)

資源ごみが処理される過程や、自転車などを再生するリサイクル工房などが見学できます。体験教室では、紙すきやさき織りが体験できます。

### (2) 豊田ほたるの里ミュージアム

年間を通して、ほたるの美しい光とその神秘の生態、そして豊田地域の豊かな自然を体験することができます。

### (3) しものせき水族館「海響館」

海響館は、下関の成り立ちが海と深く関わってきたことから、「海のいのち・海とのいのち」をコンセプトとして展示・展開されています。水の中で生活する生き物たちの生態を通じて、いのちの素晴らしさ、自然と人間の関わり合いや、自然保護や保全の大切さについて理解を深めようとするものです。

### (4) 下関市立園芸センター

花や野菜、緑化用樹、果樹などを展示栽培しています。特に、春と秋に見ごろを迎えるバラ園は見事で、大勢の見物者でにぎわっています。

#### (5) 火の山公園

山頂から瀬戸内海、日本海及び下関の街並みを一望できる眺望の特に優れた場所であり、瀬戸内海国立公園にも指定され、市民、観光客にも親しまれている本市を代表する公園です。

#### (6) 乃木浜総合公園

芝生公園と芝生グラウンドを中心に、野鳥観察所、大型遊具、散策道などのある公園です。平成16年5月に、隣接する山陽終末処理場において高度に処理された水を有効利用した親水広場が完成し、オープン以来、天気の良い日は子供たちで、大変にぎわっています。また、池や干潟など野鳥が好む環境が整備され、野鳥観察所では気軽にバードウォッチングが楽しめます。

#### (7) 深坂自然の森

下関の市街地から離れ、竜王山（標高614メートル）のふもとに位置し、およそ250ヘクタールの市有林内にある自然環境に恵まれた森で、スギ、ヒノキ、モミジ、ヤマモモなど四季折々の自然を満喫することができ、市民の憩いの場、自然学習の場として多くの方々に親しまれています。

#### (8) つのしま自然館

角島周辺の自然をわかりやすく紹介した施設。平成11年にナガスクジラ属の新種であると断定された『ツノシマクジラ』の標本レプリカもあります。



しものせき環境みらい館



海響館

#### 【参考文献】

- ・平成17年版下関市環境白書

連絡先：下関市環境部環境政策課

〒751-0847 下関市古屋町1-18-1

Tel：+81-832-52-7115 Fax：+81-832-52-1329

E-mail：kkseisaku@city.shimonoseki.yamaguchi.jp